

科学館開館40周年
天文学40年間のおもなできごと

～1990年代編～

★1990年 4/24

ハッブル宇宙望遠鏡の打ち上げ

★1990年 12/2

秋山豊貴が日本人として初めて宇宙へ

★1992年 9/12

毛利衛が日本人初のスペースシャトル搭乗

★1994年 7/8

向井千秋が日本人女性初の宇宙飛行

★1995年

恒星のまわりを回る太陽系外惑星を発見

★1996・97年

百武慧星(96)、ヘル・ボップ慧星(97)が相次いで出現

★1997年 7/4

火星探査機「マーズ・パスファインダー」火星着陸

★1998年 11/20

国際宇宙ステーション建設開始

★1999年 1月

すばる望遠鏡ファーストライト、大望遠鏡の時代が本格的にスタート

※星図はステラナビゲータ 10/(株)アストロアーツをもとに作成

この星空は

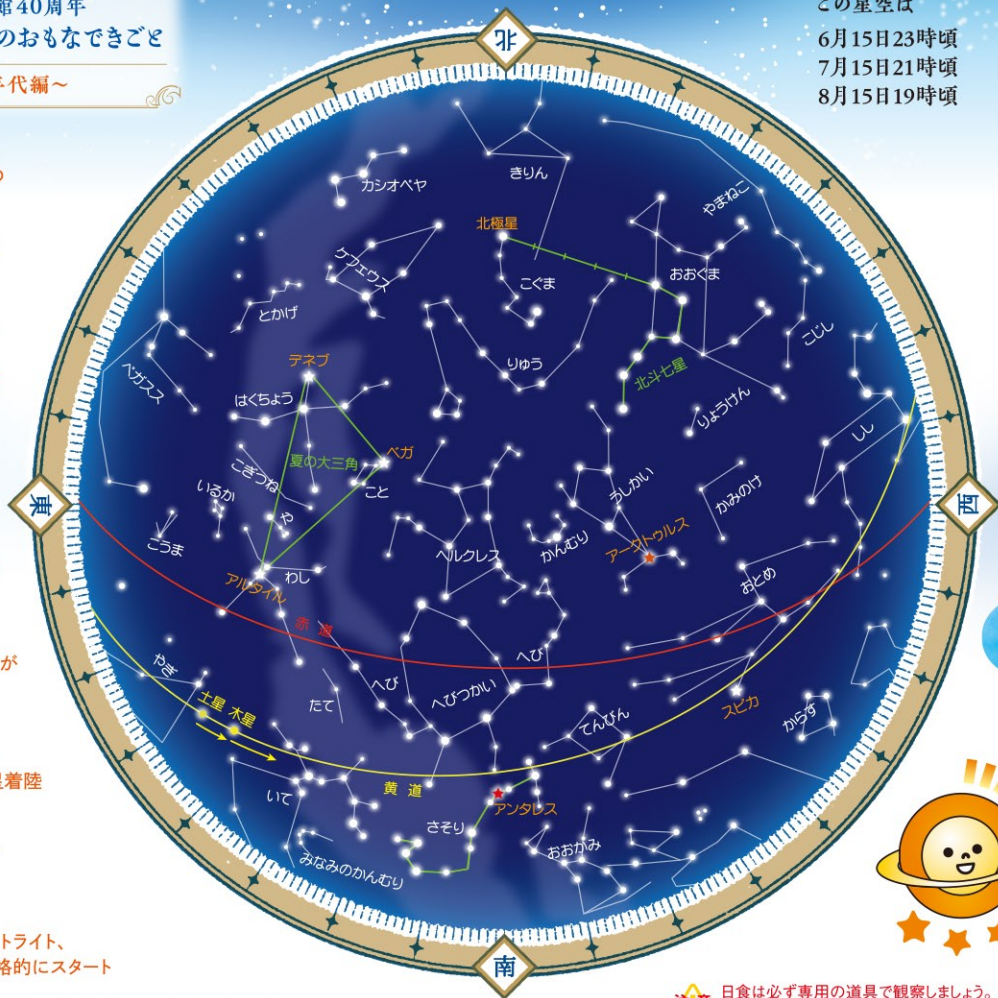
6月15日23時頃

7月15日21時頃

8月15日19時頃

《月齢》

6月	6日	満月	●
	13日	下弦	●
	21日	新月	●
	28日	上弦	●
7月	5日	満月	●
	13日	下弦	●
	21日	新月	●
8月	27日	上弦	●
	4日	満月	●
	12日	下弦	●
	19日	新月	●
	26日	上弦	●



今回の日食は
見ごたえばつぐん!



こども文化科学館
キャラクター
「びよん太」

注意 日食は必ず専用の道具で観察しましょう。
直接見たり、手近なものを使って見ないでください。

2020 夏の星空

この夏は、まずはひときわ明るい惑星の姿をさがしてみましよう。いて座のそばでは木星や土星が一晩中輝いています。6月下旬の夜半には火星、明け方には金星が東の空から見えはじめます。

木星や土星の西へ目を向けると、赤色の1等星 **アンタレス** を持つさそり座があります。釣り針型の星のならばが目印です。

一方、東の空高くには、3つの1等星からなる **夏の三大星**。もっとも明るいのから順に、こと座の **ベガ**、わし座の **アルタイル**、はくちょう座の **デネブ** が夜空を彩っています。

街明かりのない空の暗いところでは、淡くたなびく天の川と惑星や夏の星たちの共演も楽しむことができるでしょう。

天文トピック

6/21(日) 部分日食

広島では日食の最初から最後まででの全過程を観察できます。

広島での見え方(最大時)



欠け始め 16:02
食の最大 17:09
(食分0.577)
終わり 18:09

8/12(水) ペルセウス座流星群極大

薄暮から夜半が好条件です。12日の真夜中から13日の明け方には下弦の月が昇り、月明かりの影響が大きくなります。

ポイント

なるべく空全体を見渡し、暗い場所を目を慣らすために15分以上は見続けましょう。